

精華南中学校区 平成 26 年 1 月

まちづくり円卓会議記録

開催日：2014 年 1 月 26 日（日）13：30～16：00

会 場：積水ハウス総合住宅研究所

精華町では第 2 次地域福祉計画の策定を進めています。

この計画に、住民の声を届けるために、山田川きずなポートが主催して「まちづくり円卓会議」が行われました。地域福祉活動に関わる 40 名の方が（山田川きずなポートメンバー含む）が参加しました。



プログラム

- 13：30 **開会**
代表挨拶、趣旨説明
- 13：45 **第 1 部 講演、活動報告**
・講演「地域福祉活動のあり方と先進地の紹介」野村裕美（同志社大学准教授）
・「山田川きずなポート」の活動報告
- 14：40 **2 部 グループ別討論**
・共通と他 4 つのテーマで意見交換
- 15：40 **発表のまとめ**
- 16：10 **閉会の挨拶**

第 1 部は、同志社大学社会学部准教授・野村裕美さんによる講演「地域福祉活動のあり方と先進地の紹介」と、「山田川きずなポート」による活動報告が行われました。

第 2 部は、その活動報告を受けて、「この地域で暮らし続けるために必要なこと。」を共通テーマに、他「①高齢者支援について」「②人とのつながりについて」「③防犯・防災について」「④山田川きずなポートに期待すること」の 4 つのテーマで 6 班に分かれて語り合いました。



A 班

テーマ：この地域で暮らし続けるために必要なこと。



問題点

農業の後継、農業のやり方

- ・高齢化により、自分で田畑を守れない。
- ・野焼が辛い。



高齢者の生活問題

- ・高齢者増加、若者減少で活気がなくなっている。
- ・高齢世帯の増加で、自分で日常生活を対処できない事が生じる。
- ・坂道が辛い。



交通問題

- ・大型自動車の騒音をなんとかしてほしい。



買い物難民

- ・フレスコが閉店して困る。
- ・歩いて行ける場所にスーパーがほしい。
- ・車の便が悪いので買い物できない。



解決策

- ・野焼は煙の事を考えて迷惑にならない時間帯で実施に努める。

- ・高齢者（特に一人）の見守りと支援が必要。
- ・重いゴミを集積場までの搬出を近隣の者が手伝っている。【共助】

- ・規制に行政（町・警察）が出てきて欲しい。【公助】

- ・配達システムの前進を。
- ・買い物ボランティア【自助】

その他の意見

- コミュニティ活性化 ・近隣の方達との交流がもっと出来れば楽しいと思う。
- 子ども ・見守り隊の前進【共助】



F 班 テーマ：この地域で暮らし続けるために必要なこと。

問 題 点	解 決 策
<p>横のつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り隊、地域イベント、声かけの輪を広げたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の顔が見え、つながりのもてる企画。
<p>交通地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くるりんバス（ルート・バス停・頻度）の充実が地域活性化につながるように。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住人のニーズに基づいたバス改善（新たな交通手段） ・乗り合いタクシー
<p>防犯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブルー外灯（抑制効果） ・奈良県警、京都府警が連携して、パトロールを行えたら。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見えるパトロール犯罪抑制
<p>きずなポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシに工夫をこらす。 ・新たな企画で参加者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康維持、体操、ヨガなど新たな試みを。 ・脳トレ ・健康維持 地域での活動

B 班 テーマ：山田川クリーン活動や農業を活かした人とのつながり

問 題 点	解 決 策
<p>絆づくりをするために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと絆が必要！！ ・絆を広げることが大切。 ・絆づくりのイベントと場所が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人に声をかけられたら積極的に、まず参加することで絆をつくる。 ・旧村（山田、乾谷、柘榴）と桜が丘地区の絆づくりのイベントを増やす。 ・地域住民が気軽に寄れる場所をつくる（山田地区）
<p>参加者を増やすことが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員だけで実施しているので、もっと一般参加を呼びかけることが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催とクリーン活動に、貸し農園者への参加の呼び込み。 ・農業後継者、クリーンサークル等、地域単位の参加。 ・役員（自治会）、団体役員の参加 ・「山田川を美しく（山田川のPR）」に光が丘小・中学生の参加→親へ ・サポーターのカレンダーを作り、学校行事にする。
<p>道路や施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路や施設も気になります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公的サービスを受けられる施設の建設。 ・国道 163 号線の工事状況



C 班

テーマ：きずなポートを核に地域の中で住む世代の育成

問題点

きずなのPR

- きずなポートの地域の人への啓蒙・PR不足。
- 活動報告を誰にでもわかる様に知らせる。



解決策

- 精華カレンダーの様にカラー版で写真も入れて各団体、地域の行事等も含めて作成する。【共助・公助】
- 特に老人会、高齢者サロンなどには出向いてでも説明する。【共助・公助】

活動への参加促進について

- 行事への参加者を増やしていくには。
- きずなの家の利用者を増やしていくには。



- きずなポートの活動に子どもを参加させる。
- 各地域の人材の掘り起こしと人材バンクの作成（子ども達に伝えるもの、音楽、読み聞かせ）
- いろんなサークルを作成し、興味のある人が集まるようにする。
- 長時間ではなく、わずかな時間でボランティアが出来るようにする。

健康

- 年老いて健康のありがたさを痛感するので、心身共に特に心を健康に！



- 集会所（山田、乾谷、桜が丘）2～3ヶ所で高齢化社会に向けた健康づくりを町行政、医師との連携で継続的に開催する。
- 地域の資源を利用する。（保健師、栄養士のボランティア）
- 健康診断の斡旋をする。

きずなポートの役割

- 地域の絆を広げ、旧村と新村との交流不足をなくす。
- きずなポートへの交通手段がない。



- 年1回池谷公園での夏祭り（地域全体）開催
- 自治会、子ども会、老人会など行政、いろんな方々が集まり、考える。
- きずなポートが中心的な役割（世話係）をし、校区をまとめていく。
- 高齢者、独居老人の参加者を拡大するため、送迎サービスを検討する。





D 班 テーマ：地域ぐるみの健康づくり、認知症を含む高齢者支援、身近な介護施設について

問題点

一人暮らしの高齢者の安心

- ・高齢者が一人でも安心して暮らせる環境づくり。



解決策

- ・近隣の声かけ
- ・安心サポートシステム（見守りサービス※有料機械的サービス）をPRする。
- ・回覧板を回さない世帯を作らない。（自治会強制加入）
- ・自治会や民生委員、その他の会との意見交換的なものが必要。

高齢者福祉の専門機関との連携

- ・介護施設情報がわからない。
- ・介護施設の入居先がわからない。



- ・地域包括支援センターのランチを。（名張市の例）
- ・介護施設の利用経験者のネットワークを作成する。

高齢者のやる気を引き出す

- ・高齢者が趣味を持つ動機がみつからない。
- ・身近に外出する場所や動機があれば。
- ・他人と飲食できる場所（喫茶店的な）の提供。



- ・きずなポートの充実。案内の呼びかけ。
- ・地域の中心になる組織（自治会、老人会）に依頼する。



E班 テーマ：地域ぐるみの健康づくり、認知症を含む高齢者支援、身近な介護施設について

問題点

解決策

健康

- 健康で長生きできるように。



- きずなポートの活動で「薬膳研究会」を作る。
- 「医食同源」家族の健康から気をつける。

福祉

- 福祉のしくみが分からない。
- そもそも地域福祉計画って何。
- 認知症に関する理解不足。
- 認知症になったらどうしたらよいか。
- 南中学校区には介護施設がない。
- 夜間の介護（高齢者・障がい者）



- 福祉教育（認知症など）
- 認知症になったら精華町も早く入居できるようにしてほしい
- ボケ対策 Q&A（冊子）を作成する。
- 高齢者体験を行う（講座・福祉体験授業）

若者

- 消防団のメンバーの固定化が心配。
- 若者の居場所が分からない。
- 近所に若い人が欲しい。



- きずなの家で若者みんな集まろう！（そういう趣旨の会を作る）

生活

- 歩けなくなったら買物をどうする。



- ネットショッピング、通信販売を活用する。
- IT 教育（高齢者）
- 南部にコミュニティーセンターを作り、パソコンの教育をしてほしい。

安全

- 道路で孫と遊びたい。
- 高齢者が多いので、車のスピードを落としてほしい。



- 生活道路にフラワーボックスを置く。

きずなポートにおねがい

- 当事者でないので問題意識がない。
- 意識をもっていないので問題が…。



- 今後も参加して多くの人達と話し合い勉強して行きたい。
- 興味を持たせるために「インセンティブ」をつけると参加者が増える。





問 1

ご自身のことについてお答えください

★性別

全体	男性	女性	不明
29人	16人	12人	1人
100%	55.2%	41.4%	3.4%



★年齢

全体	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
29人	0人	2人	3人	3人	15人	6人
100%	0%	6.9%	10.3%	10.3%	51.7%	20.7%

★小学校区

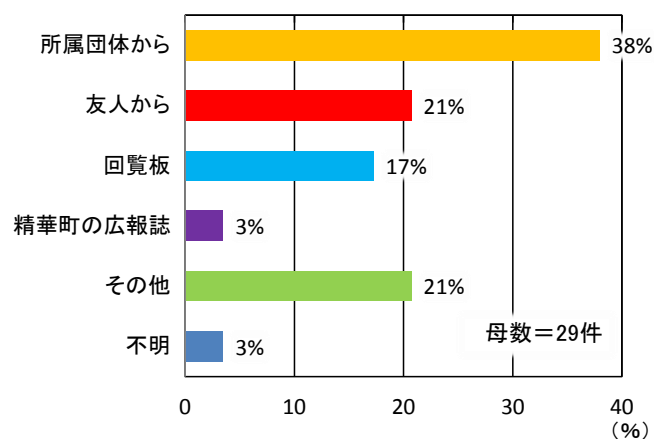
全体	山田	乾谷	柘榴	桜が丘	その他	不明
29人	7人	7人	0人	11人	1人	3人
100%	24.1%	24.1%	0%	37.9%	3.4%	10.3%

★地域活動に関わる活動をされていますか（複数回答）

全体	子育て支援関係	高齢者福祉関係	障がい者福祉関係	その他（自治会等）	特に活動していない	不明
29人	5人	3人	3人	10人	11人	1人
100%	17.2%	10.3%	10.3%	34.5%	37.9%	3.4%

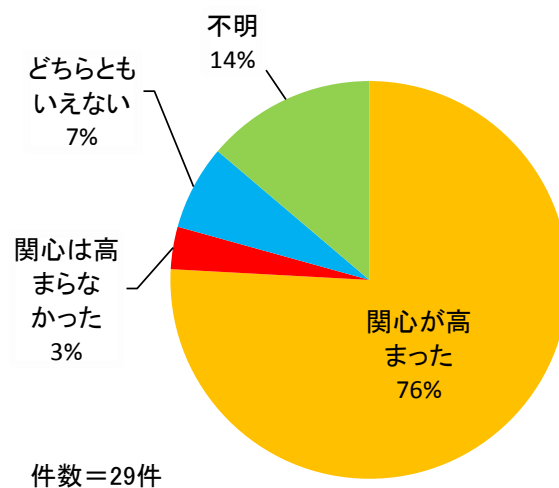
問 2

まちづくり円卓会議をどこで聞かれましたか



問 3

地域福祉の取り組みに関心が高まりましたか

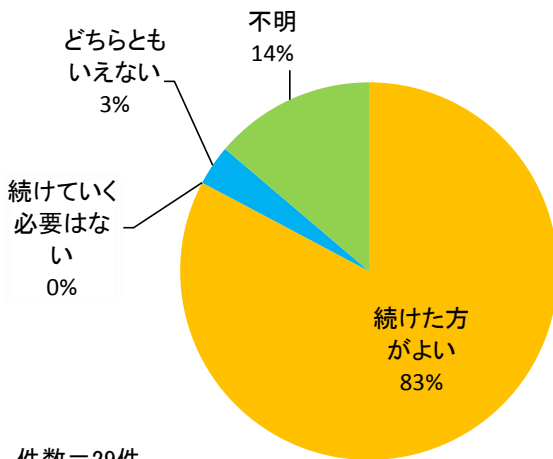




アンケート結果

問 4

まちづくり円卓会議についてどのように思われますか



★「続けた方がよい」と答えた人の理由

- たくさんアイデアが出てきた。参加するということが大切。
- PRをもっと。
- いろんな問題や意見が聞けてよかった。参考にしたい。
- シニア世代が増す中で、次の世代に継ぐために今後どう過ごしていくか考えていくのが大切。
- その問題点について関係者数が維持されるから。
- ひとりでも知り合いが増えるから。
- 意識向上の為。
- 一回ではいい案が出ない。継続は力。
- 高齢化社会になるので、いろんな意見が出てよい。
- 高齢者が増加しているの、みんなの集まる場所があればよいと思う。
- 三地域の実情、課題が明確になるから。
- 住人との相互理解。
- 色々な地域の人と、問題が多く話し合えて良いと思う。
- 新興地域の方の声が直接聞けて良かった。
- 同志社大学の先生の話は新しい知識でよかった。
- 絆を広げることが大切である。

問 5

まちづくり円卓会議の感想など、自由にお書きください

【感想・意見】

- 地域の絆・つながりの大切さを広く知らせ、連帯をつくるによい会議と考える。
- 生活していて意見を言う場がないのでこういう場があるのもよい。
- きずなサポートの活動がこんなにされているとは知らなかった。指導、運営されている方々、御苦労様です。
- 住民参加の重要性を強く感じた。
- 人生の先輩ががんばっておられるのが住民のモデルになるので、それだけでも大きな意義があると思う。
- 新旧住民との交流が大事。定年後、趣味を同じくする人との関わりにより健康福祉につなげていきたい。
- 各班の発表について、もう少し整理して話したらどうか。(各意見が出たが、整理する時間がなかったのか)
- 今日の時間内では、アンケートに答えられるだけの話しが出来ていないと思う。
- 少しやり方が参加者任せな気がした。どのような立場で参加しているのか分からなかった。
- なぜ柘榴の人が入っていないのか？
- 社協との関係がよく分からない。

【提案等】

- きずなサポートの活動を多くしたらよいと思う。
- フレスコがなくなり不便なので、跡を地域の拠点(まちの保健室等)として行政で借りることはできないか。
- 多くの意見が出たので、是非もう一度しかるべきメンバー入れて検討し、行政側に意見書を出して欲しい。
- 構成メンバーの検討が必要。1. まちづくりを進めていく学識者、2. 自治会役員、3. 若い世代、それぞれの参加により幅広い意見を集約し、今後のまちづくりの中心となればよいと思う。